

新潟・船戸桜田遺跡

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町船戸
- 2 調査期間 第四次調査 二〇〇〇年(平12)九月～一〇月
- 3 発掘機関 中条町教育委員会
- 4 調査担当者 吉村光彦
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 六世紀、八世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



船戸桜田遺跡は、塩津潟に流れ込む舟戸川の流域に位置する集落跡である。JR羽越線を挟んだ上流側(東)には、「少目御館米」と記された木簡が出土した蔵ノ坪遺跡(本号に所収)がある。今回の調査区は、かつて木簡が出土した第二次調査区(本誌第二二号)の南に道路を挟んで隣接する幅三m長さ二二〇mの範囲である。

その結果、第二次調査区

で木簡や六五点の木製盤が出土した川の下流部分を検出した。この川からは、木簡をはじめとして、須恵器・土師器・木製品などの遺物が出土した。木製品は、第二次調査に引続き盤の出土があった。また、須恵器蓋の転用硯や分銅形土製品なども認められた。墨書土器「三宅人神」(須恵器、八世紀)、「木」二点(土師器、九世紀)が出土している。

遺物の時期は、八世紀後半から九世紀が主体であるが、一〇世紀に入るものも認められた。

8 木簡の釈文・内容

(1) □□郷□□

82×31×3 019

上端と左右側面は原形を保つ。下端は両面から刃を入れて切断している。郷名と人名を記載していると思われることから、荷札木簡の可能性がある。郷名は墨痕が薄いため明らかにできない。

なお、木簡の釈読及び内容については、新潟大学の小林昌二氏・相沢央氏のご教示によった。



(水澤幸一)